

音楽科学習指導案

指導者 呉市立横路小学校 仙田 和子

1 題材名 「声で表現しよう」

2 対 象 呉市立横路小学校 第5学年4組 38名

3 題材の指導目標

- 声による表現に関心を持ち、意欲的に自分の思いや願いを声で表現していくに取り組むことができる。
(音楽への関心・意欲・態度)
- 声の組み合わせによる響きのおもしろさを感じ取り、多様な声の表現方法や発声法を工夫することができる。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- 歌詞の内容や曲想を感じ取り、イメージを膨らませながら、自分の思いに合う歌い方ができるようにする。
(表現の技能)
- 美しく響きのある表現を感じ取り、表現することへの憧れをもちながら曲全体を味わって聴くことができる。
(鑑賞の能力)

4 題材設定の趣旨

- 本題材は、創造的音楽学習の手法を取り入れた声の表現活動を通して、多様な声の表現に気付き、自己の思いや願いを豊かに表現する力を高めることをねらいとして設定した。

音楽科における「思い」や「願い」とは、音楽を成立させる、創作・表現・鑑賞それぞれの活動において、音楽を構築し、表出し、感受・洞察するための根幹となる、心情や表現意図を発現させる「イメージ、感情、感覚」であると考えられる。このことを、音楽科の指導の観点から考えると、音楽そのものがもつ豊かな感化力を生かしながら、その力の作用を豊かに感受させることが、心的働きとしてのイメージ・感情・感覚を喚起し、自己の思いや願いを形成することになると考えられる。なぜならば、音楽への思いや願いを膨らませることは、音楽表現の出発点となり、表現意欲を喚起していくものであるからである。また、思いや願いを表現することによって生ずる感動を共有する心を育てていくことは、音楽科教育の目標である、心情と感性を育成していくものである。

創造的音楽学習では、児童自らが音を探求し、音楽に対して創造的なアプローチをすることを重視している。ここで教師に求められているのは、児童が考えを進めていくきっかけをつくり、自らの判断力や洞察力を発達させる手助けをすることである。この創造的音楽学習の理念に基づけば、各自の思いや願いを明確にさせ、それに応じた表現方法を模索し、実現させていくことができると考える。

ところで、児童にとって「音」として最も直接的なものは「声」と考えられる。日々、心情や思いを「話す」ことにより、メッセージとして伝えているが、その際、「言葉」としての意味だけでなく、その「音色、音高、長さ」などの組み合わせで語感や表現意図を感じ取っている。このことから、声そのものに着目し、同じ言葉でも発する人の「思い」や「願い」の込め方で声の表現は変化し、それが聴く人に伝わるという経験を積んでいくことが、自己の表現意図を実現していく上での表現の幅を広げ、表現する力を高めていくと考える。

また、創造的音楽学習による様々な声の表現活動を行うことは、声の構成に着目し、音楽をつくって表現する力や、鑑賞における声の表現や感情表現を感受する能力も高めていくものと考えられる。さらに、声で自分の思いや願いを豊かに表現していくことは、自分のイメージしたことを心の中で歌う（心で音楽を感じる）ことに感応し、楽器などを媒介にして自分の思いを音で表現していくことへと発展していくものであると考える。

本題材の学習指導要領との関連は、高学年の学年目標(1)「創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め」(2)「基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わう」であり、A表現の項目(2)ア「歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫すること」、(3)ア「呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと」とかかわるものである。

- 音楽科に対する事前の意識調査では、歌唱や器楽の表現活動に対して、約8割以上の児童が肯定的に回答しているが、創作に対する肯定的な回答は約半数であった。このことから、児童は創作活動への興味・関心をあまりもっていないと考えられる。また、歌唱においては、肯定的な回答が多い中で、他の活動と比較すると「好きでない」と回答した児童が多かった。その理由の多くは歌唱表現することへの抵抗感であった。このことから、表現することへの抵抗を軽減し、喜びや、楽しさを感じ取らせるような授業を工夫していく必要があると考える。また、歌う時に歌詞や音程やリズムを正しく歌うことは意識しているが、表現するためのブレスや、情景を思い浮かべ、自分の思いや願いを込めて歌おうとする意識が低いことが分かった。つまり、正しく歌えるかどうかは児童の音楽に対する意識であり、そのことは「歌うことが好きでない」と答えた理由とも関連していると考えられる。そこで、自分の思いや願いを実現する音楽活動を通して、声で表現していくことの楽しさや様々な声の響きを感じ取り、表現する力が高まったことを実感できるようにしていきたい。

また、「声」そのものは最も身近な「音」であるがために、それそのものの質感や音の変化に着目し、深く思考したり表現したりするようなことは少ないと考えられるので、そのような場面を設けることにより、「声」を「音」として認識する

ことができるようにしたい。

- 指導に当たっては、児童の思いや願いを生かしながら、表現・創作・鑑賞の活動を組み合わせることにより、自己の表現意図を明確にし、表現力を高めることができるようにする。

具体的には、創造的音楽学習の手法による、「『ア』の音楽をつくろう」「『呼びかけ』の表現を工夫しよう」「『歌詞読み』を工夫しよう」という声そのものに着目した表現活動を通して、多様な声の表現に気付かせ、自己の思いや願いを、声を通して表現することの楽しさを実感させる。また、歌唱表現では、声の表現活動で工夫したことを生かしながら、自己の思いや願いを歌に込め、豊かに表現することができるようにする。声の表現では、声そのものに思いを込めることで様々な声の出し方を体得できるよう、しっかりと声の魅力を感じ取らせたい。また、多様な声の表現を認め、その中から、自己の思いに合った表現を工夫していけるようにしていきたい。

鑑賞では、多様な声の表現や豊かな心情表現が伝わってくるような作品を視聴することにより、様々な声の表現や感情表現を感じ取り、憧れを抱き、自己の表現に生かせるようにする。また、互いに聴き合ったり、録音やVTRに録画し、それを鑑賞していったりすることにより、自他の表現を振り返り、表現力が高まったことを実感し、新たに音楽表現していこうとする意欲を喚起していくようにしていきたい。さらに、声を組み合わせて音楽を構成していくことを通して、音楽をつくりだす喜びも感得させていきたい。

5 主な教材

(1) 教材名

- 「呼びかけ」 竹内ちさ子作詞・作曲 CD
- 「かえるのうた」～「勝手なコーラス」より 草野心平作詞・坪能克裕作曲 CD
- 「メモリー」(ミュージカル『キャッツ』より) MUSIC BY ANDREW LLOYD WEBBER, VTR
- 「ビリーブ」(小学生の音楽5 教科書 教育芸術社 p.2) 杉本竜一作詞・作曲

(2) 教材について

○「呼びかけ」

「1977年、西ドイツのボンで開催された『ベートーヴェン・フェスティバル』、及び『国際現代音楽祭』(ISC M)における『子どものための子どもによる作品』コンクールに入賞し、演奏された4作品のうちの1つである。『オーイ』『ナーニ』と呼びかけ合うこの曲は言葉の壁を越えて世界中の人に喝采を浴びた。

曲は『オーイ』『ナーニ』を2グループに分かれて、さまざまな表情で呼びかけ合うものである。呼びかけの回数や表情のつけ方は演奏者に任されているので、奏者の創造性や即興性に負うところが大きい。」(坪能由紀子・監修・解説、『CD 音楽をつくる～子どもが演奏し聴き、そしてつくるために』コロムビア社、1993 p.14 より引用)

このことから、このコール・アンド・レスポンスの手法を取り入れて自分達の「呼びかけ」の音楽をつくっていくことにより、自分の思いを声で表現していくことを楽しむことができる教材といえる。

○「かえるのうた」～「勝手なコーラス」より

「草野心平はかえるを主題とした詩を数多く書いた詩人である。『勝手なコーラス』はそうしたかえるを主題にした彼の詩の一つで、全体がかえるの声の擬声語でできている。子ども達一人一人にこのかえるの声を受け持たせて、その声を音響的に変調しながら構成したのが、この『かえるのうた』である。あちこちからさまざまなかえるの声が聞こえてくる。それは詩の朗読でもなければ、普通の歌でもない。この『歌』とも『詩』とも違った新しい音の世界からは、声や言葉の広がりの可能性に目を向けることができる。この詩の1行ずつを紙に書いて1人ずつに与え、自分の手にした紙に書かれたオノマトペをさまざまに表情をつけて歌う(朗読する)と、誰もが参加できる声のための作品となる。東京現代音楽祭・童楽では、聴衆全員参加によるサウンド・パフォーマンスとして演奏された。」(上掲書p.16 より引用)

この手法を使って、歌詞の内容から自分が抱いた思いや願いを、いろいろな声で歌詞読みをしていくことで、様々な感じ方に触れることができる。また、みんなで合わせていくことで、新たな声の響きの広がりを感じ取ることができる教材である。

○「メモリー」(ミュージカル『キャッツ』より)

ミュージカル『キャッツ』は、イギリスの詩人T.Sエリオット原作の『ボッサムおじさんの猫と付き合う方法』の詩14編をもとに作られた。「メモリー」は老猫グリザベラが歌い、周りの猫たちがその歌で心を動かされ、心の真実に触れて彼女の永遠の至福を願う、というものである。英語版であるが、「メモリー」を歌い上げているイレーネ・ペイジの真に迫る歌唱表現は見るものの心に訴えるものがある。子ども達も豊かな声の表現と全身の表情から生み出される感情表現を感じ取って鑑賞できるものである。

○「ビリーブ」

NHKテレビ番組「生き物地球紀行」のエンディングテーマとして放送されて、広く知られた曲である。今の困難にくじけず、互いに助け合いながら、未来に向かって歩いていこうという心温まる歌詞と、印象的で美しい旋律が、多くの人たちに感動をもって受け入れられた。低い音域の発声、拍の流れにのった表現などに気をつけながら、自分の思いを込めて声の出し方や表現の仕方を工夫していける教材である。

6 指導の工夫

「『ア』の音楽をつくろう」では、アという母音に様々な思いを込めて声を出していくことで、「ア」という一音でも多様な声の表現ができることに気付くことができる。さらに、みんなで合わせていくことにより、声の響きのおもしろさや、音楽の構成に着目しながら、音楽をつくっていく楽しさを味わうことができると考える。

「『呼びかけ』の表現を工夫しよう」では、「呼びかけ」の言葉を各自が思いを込めて声に出していくことによって、声の表情を感じ取っていくものである。「呼びかけ」の鑑賞では、声に表現されている思いや表現意図を感じ取り、表現のイメージを膨らませ、自己の表現に生かしていけると考える。また、コール アンド リスポンスにより、伝える相手を意識して互いに表現することの楽しさを味わうことができると考える。

「『歌詞読み』を工夫しよう」では、詩のカノンやオスティナートの手法を用いることによって、自分が伝えたい気持ちを表現していく工夫ができると考える。また、「かえるのうた」の鑑賞では、様々な声の響きや、その組み合わせによる構成の工夫を感じ取ることができる。

「歌声で自分の思いを伝えよう」では、歌のどこを、どのような気持ちで、どんな声で歌いたいかを明確にしていくことにより、これまでの創造的音楽学習による声の表現活動で学習したことを生かしながら、より自己の思いが伝わるように歌唱表現の工夫をしていくことができると考える。また、「メモリー」の鑑賞では、豊かな声の表現と全身から伝わってくる感情表現を感じ取り、表現への憧れを抱くことができると考える。

7 指導計画（5時間扱い）

- 第一次（2時間）母音「ア」に一人一人の児童が自分の思いを込めて声を出し、みんなの声を組み合わせて「ア」の音楽を構成し、声を出して表現することの楽しさを体験させる。
「呼びかけ」の言葉に一人一人のイメージをふくらませて表現の工夫をするようにする。
- 第二次（1時間）歌詞からイメージする自分の思いを、声の出し方（音高・リズム・テンポ・抑揚など）を工夫して読んでいくようにし、歌詞読みのおもしろさを感じ取らせる。
- 第三次（2時間）曲のどこをどのように歌いたい、自分の思いや願いをもち、自分の思いが歌声で聴く人に伝わるように工夫し、歌唱表現を高めていくようにする。

8 評価計画

○ 評価規準

- ア 自分の思いや願いを声で表現することに関心をもち、進んで活動しようとしている。
（音楽への関心・意欲・態度）
- イ 自分の思いに合う声の出し方を工夫したり、友達と声を重ねたりして、響きのおもしろさを感じ取っている。
（音楽的な感受や表現の工夫）
- ウ 言葉・歌詞の内容・曲想に合う声の出し方や歌い方ができるようになる。 （表現の技能）
- エ 豊かな表現を感じ取って見たり、聴いたりし、音楽活動への憧れを持つことができる。 （鑑賞の能力）

○ 評価方法

- ア 教師による授業分析
aビデオ b録音 c行動の観察 d表情や態度の観察
- イ 学習者による授業分析
a学習カードの記入（自由記述内容・四段階評定尺度法） b感想・話し合い

○ 題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	自分の思いや願いを声で表現することに関心をもち、進んで活動しようとしている。	自分の思いに合う声の出し方を工夫したり、友達と声を重ねたりして、響きのおもしろさを感じ取っている。	言葉・歌詞の内容・曲想に合う声の出し方や歌い方ができるようになる。	豊かな表現を感じ取って見たり、聴いたりし、音楽活動への憧れをもつことができる。
学習活動における具体的評価規準	自分の思いや願いを声で表現しようとしている。 歌詞からイメージする思いや、どのように歌いたいかを歌詞カードに書き込んでいる。	声の組み合わせを工夫している。 自分の思いを込めて歌詞読みの工夫をしている。 自分の声を生かしながら思いを表現できるように、声の出し方を工夫している。	自分の表現したい思いを声で表現している。 友達との声の重なりを感じ取って表現したり、聴き合ったりしている。 自分のイメージする声の出し方や歌い方をしている。 自分の思いや願いを込めて歌っている。	様々な声の表現に興味をもって聴いている。 表現されている思いや願いを想像しながら聴いている。 友達の表現のよさを感じ取って聴いている。

【題材の評価規準を導き出すために参考とした内容のまとまりごとの評価規準及び評価規準の具体例】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	○	○	○	
器楽				
創作		○	○	
鑑賞				○
評価規準の具体例	(歌) 歌唱表現を聴いて同じように歌いたいという思いや願いをもち、創造性を生かした意欲的な歌唱表現をしようとしている。 (歌) 自分の表現意図や思いが表現できるように繰り返し歌おうとしている。 (歌) 自分自身の表現意図をもち、集団で協力して歌唱表現の仕方を工夫しようとしている。	(創) いろいろな声の響きのよさや美しさを感じ取り、それらを生かした多様な声の表現の仕方を工夫している。 (歌) 歌詞の表す情景や気持ちを想像し、言葉の意味や歌詞の内容を理解して、それらを生かした歌唱表現の工夫をしている。 (歌) 自然で無理のない声、きれいな声、豊かな響きのある声による美しい歌唱表現を求めて、歌い方を工夫している。	(歌) 自分の声の持ち味を生かし、伸び伸びとした歌声で歌うとともに、曲想に合った自然な歌い方を工夫して歌っている。 (創) 自由な発想で即興的に音を選び、自然や情景、人の気持ちや心の変化・様子などを表現している。 (歌) 理解した歌詞の内容や楽曲の構成にふさわしい表現の仕方を工夫して歌っている。	(鑑) 音楽表現のよさや美しさを感じ取りながら、様々な楽曲を聴いたり、範唱や友達の表現を聴いたりする。 (鑑) 多様な演奏形態の音楽に親しみ、音色の異なった様々な声がかかわり合ったり溶け合ったりして生まれる多彩な響きの美しさを感じ取って聴く。

【具体的評価規準におけることと判断される状況への働きかけ】

働きかけ	ゲーム的な感覚を取り入れ、教師や友達の模倣を繰り返すことにより、声を出すことがスムーズに行えるようにする。 詩の内容と一緒に朗唱することにより、イメージを膨らませていくようにする。	友達の声の表現に注意を向けるようにし、模倣から自分の表現へと高めていけるようにする。 側で一緒に歌詞読みをし、どう読みたいか聞きながら共に表現していく。 自信を持って歌えるように言葉がけをしたり一緒に歌ったりする。	選んだ言葉の中にどんな気持ちを含めたいのかを聞きながら教師も声を出し、声を出すことの楽しさが伝わるようにする。 声の出し方に自信が持てるように、息をたっぷり吸って声を出すように支援する。 自分が一番心を込めたい所、強調したい所を選ばせ、そこを工夫して声が出せるように声かけをする。 目を閉じて歌うなど、声に集中して歌えるようにする。	集中して聴けるように側で聴く視点(どんな気持ちで声を出しているか想像する。)を意識付ける。 全身を使った表現と、声の出し方に注目するよう声かけをする。 真剣に友達の歌を聴くように指導する。
------	--	--	--	---

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

キーワード	□積極的な反応 □多様な声を出している。 □多様な思いが記述されている。 □具体的な声のイメージを持っている。	□進んで声を出している。 □グループ内での提案内容 □いろいろな声の出し方を工夫しながら読んでいく。 □自分の歌詞読みに集中している。 □自分の声をしっかり聴きながら歌い方の工夫をしている。 □工夫したことが具体的に記入されている。	□積極的に声を出し、表現することを楽しんでいく。 □進んで指揮者となり、声を構成していくことに興味を持って取り組んでいる。 □自分の表現意図が伝わるような声の出し方をしている。 □カードへの表現内容の記述。 □表情や身体表現などで自分の思いがのびのびと歌いながら表現されている。	□多くのよさを発見し、発言している。 □感動や自分の思いが発言できる。 □感動や自分の思いを記述している。 □集中して聴いている。 □友達のよさがしっかりと気付きとして書かれている。
-------	---	--	--	--

9 指導と評価の計画(全5時間)

次	教材	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点	具体的 評価規準	評価方法
第一次 (2時間)	「ア」による母音唱法(オーストラリアン・カンパニースタイル)	○母音「ア」に自分の思いを込めて声を出すゲームをし、自分の思いに合った声を出したり集中して音を聴いたりすることができるようにする。	○既習曲「ピリブ」を歌う。 ○教師が発声した「ア」の声から「どんな気持ちか込められているか」当て合いをし、模倣する。 「ア」の音楽をつくろう ○円形になり、一人一人の表現する「ア」への思いを想像しながら模倣し、表現(個)模倣(全)を繰り返しながら声のリレーをする。 ○「ア」の音をつくる。(個) 「タイトル」「イメージ」「音の図」をカードに書き、自分の思いに合う声で表現する。 ○「ア」の音楽をつくる。(全員) 「ア」の音楽を構成し、録音して聴き合う。	○音楽学習の雰囲気をつくる。 ○多様な声を出し、楽しみながら声に集中させる。 ○多様な声の表現を体感させる。 ○自分の思いが声で表現できるように、声の出し方を工夫するよう声かけをする。 ○音楽を構成する方法を伝える。 ・一人一人がつくった「ア」の音を黒板に貼っていく。 ・指揮者が黒板上で指揮棒を動かして(テンポやリズムは自由)指示された人が声を出す。(指示は個、全員、休み) ・個の声、全員の声、声のない部分、を効果的に組み合わせる。	ア - (歌) ウ - (創)	ア - ad ア-abd イ - ab
	「呼びかけ」(ユル・アンド・リス)	○「呼びかけ」の言葉からイメージする思いを声で表現していくことに慣れ、グループごとに声の組合せを工夫する。	○声の組み合わせを意識しながら、「呼びかけ」(CD)を聴く。 「呼びかけ」の表現を工夫しよう ○円形になり、一人一人が「アレ」「ドウシタ」のどちらかを選択し、思いを込めて声で表現していく。 ○グループで個々の「アレ」と「ドウシタ」の組合せを工夫して発表し、みんなで聴き合う。	○「呼びかけ」(オーイ・ナーニ)の言葉の構成ですばらしい音楽になることを感じ取らせるようにする。 ○「コール・アンド・リスポンス」の手法を用いる。	エ - (鑑) ウ - (歌) イ - (創)	ア - d イ - b ア - d ア - c イ - ab
第二次 (1時間)	「かえるのうた」(ユル・グループ)	○歌詞からイメージする自分の思いを、声の出し方を工夫して表現することができるようにする。	○声や言葉に様々な表情がつけられていると感じ取りながら「かえるのうた」(CD)を聴く。 「歌詞読み」を工夫しよう ○「ピリブ」の歌詞を自分の思いや願いを込めて読む工夫をする。 ○声のずれや、声が合わさった微妙な響きを感じ取りながら、みんなで読み合わせ、録音して聴き合う。	○詩から広がるイメージを自分なりの声の表現をしていくことで、誰もが参加できる声のための作品となっていることに気づかせるようにする。 ○読み方の工夫例を示す。 ・全体を読む。(詩のカノンをする。) ・強調したいところを繰り返す。 ・自分の思いに合うよう、声の高低、速さ、リズム、抑揚を工夫する。	エ - (鑑) イ - (歌) ウ - (歌)	ア - d イ - b ア - cd ア-abd イ - a
第三次 (2時間)	「ピリブ」	○曲のどこをどのように歌いたいか、自分の思いや願いをもち、自分の思いが歌声で聴く人に伝わるように工夫する。	「歌声で自分の思いを伝えよう」 ○歌詞「ピリブ」の中に自分の思いやどのように歌いたいかを書き込む。 ○書き込んだことが歌声で表現できるように声の出し方を工夫する。 ○二人組みになって、自分はどこをどう歌いたいかを伝え合い、その部分を歌い、互いに聴き合ったり助言し合ったりする。 (「ナイス!カード」の活用) ○歌詞の拡大したものに、みんなで自分の歌い方を書き込む。 ○円形になり、互いの表情を見合いながらみんなで歌う。	○歌詞を書いたプリントを用意し、行間に書き込みができるようにする。 ○一人一人が自分の声を聴きながら表現の工夫ができるように、できるだけ各自の場所の間隔をあける。 ○ペア学習でのリレーションづくりに配慮する。 ・2人一組になる。 ・歌が終わったら、また別のペアと歌う。この時、同じペアはならないようにする。 ・時間内にできるだけたくさんのペアと歌い合わせるようにする。 ○自分の思う歌い方がのびのびと表現できるように声かけをする。	ア - (歌) イ - (歌) ウ - (歌) ウ - (歌)	イ - a ア - cd イ - a ア - ac イ - b ア - ad イ - a
	「メモリー」「ピリブ」	○グループで歌い方を工夫し、互いに聴き合って、歌唱表現を高めていくことができるようにする。	○歌声に表現されている思いや願いを想像しながら、「メモリー」を模倣する。 「歌声で自分の気持ちを伝えよう(グループ)」 ○グループで、自分はどこをどう歌いたいかを伝え合い、より自分達の思いが伝わるように歌い方の工夫をする。 ○グループの発表を聴き合う。 ○みんなで「ピリブ」を歌う。	○各自が感じ取ったことを自分の表現に生かせるように言葉かけをする。 ○グループの中で自分の思いが出せるような雰囲気をつくる。 ○それぞれの歌い方のよさを認められるように、言葉かけをしていく。 ○一人一人の思いや願いが歌声で実現できるように、子ども達の思いを大切に伴奏をしていく。	エ - (鑑) ウ - (歌) エ - (鑑) ウ - (歌)	ア - d イ - ab ア - ac イ - b ア - a イ - ab ア - a

10 本時の学習（第一次 第2時のもの）

○ 本時の目標

「呼びかけ」の言葉からイメージする思いを声で表現していくことができるようにするとともに、グループで声を組み合わせて、声の音楽をつくっていくことができるようにする。

○ 本時の評価規準

エ - , ウ - , イ -

○ 学習指導の展開

学習内容と主な学習活動	指導上の留意点（学習活動における具体的評価規準） （評価方法）
1 学習の雰囲気をつくる。 ・「ビリーブ」を歌う。	○どんな声で歌いたいイメージしながら歌うように声かけをし、本時の学習の雰囲気が出るようにする。
2 前時につくった「ア」の音楽と、「呼びかけ」(C D)の音楽を聴く。	○自分達の表現を振り返らせるとともに、「呼びかけ」を鑑賞することで、「オーイ」「ナーニ」の言葉の構成で、すばらしい音楽になることを感じ取らせるようにする。(エ -)(ア - d, イ - b)
「呼びかけ」の表現を工夫しよう	
3 円形になり、一人一人が「アレ」「ドウシタ」のどちらかを選択し、即興的に思いを込めて声で表現し、リレーしていく。	○声のリレーが途切れないように指示し、多様な声の表現を体感させる。(ウ -)(ア - d)
4 教師が用意した「音の図」(10パターン)を見て、どんな声か想像し、声で表現する。	○「音の図」から、音の強弱の変化・抑揚・弾む感じ・柔らかい感じなどが感じ取れるようにし、声や表情で表現することの楽しさを体感させる。
5 自分のイメージする声（「アレ」「ドウシタ」）の「音の図」を描き、思いが伝わるように声の出し方を工夫していく。	○自分の思いが声で表現できるように、声の出し方を工夫するよう声かけをする。コール アンド リスパンスの手法により、伝える相手を意識し、声を合わせていくようにアドバイスをする。
6 グループで「アレ」「ドウシタ」の組み合わせを工夫し、各自の「音の図」を模造紙に貼り、音楽をつくっていく。	○前時で学習した、個の声、全員の声、声のない部分を効果的に組み合わせることを想起させる。 (イ -)(ア - c, イ - a b)
7 グループの発表を聴き合う。	○グループの工夫点や、声が合わさった響きやずれのおもしろさを感じ取って聴くようにする。
8 次時の学習を確認する。	○本時の学習を生かして、「歌詞読み」を工夫していくことを伝える。

【具体的評価規準におけるCと判断される状況への働きかけ】

- エ - 集中して聴けるように側で聴く視点(どんな気持ちで声を出しているか想像する)を意識づける。
- ウ - 選んだ言葉の中にどんな気持ちを込めたいのかを聞きながら、教師もいっしょに声を出し、声を出すことの楽しさが伝わるようにする。
- イ - 友達の声の表現に注意を向けるようにし、模倣から自分の表現へと高めていけるようにする。

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

- エ - 多くのよさを発見し、発言している。
 - ウ - 積極的に声を出し、表現することを楽しんでいる。
 - イ - 進んで声を出している。
- グループ内での提案内容(個のよさや、互いの声の響きを生かそうとする内容)